

課題探究型学修《K I Z U K I プロジェクト》 令和6年度取組報告及び令和7年度事業計画について

(1) プロジェクト・テーマ

- 1・2学年：自分の興味・関心から探究とは何かを理解する。地域の復興やコミュニティの創出に対して高校生に何ができるか、岩泉をフィールドに課題と向き合い、その改善を考察するとともに高校生が描く解決策を地域の人々と協働して実践することができる。
- 3学年：自分の進路を見据え、興味・関心を深めることで、学術的に、自分らしく語ることができる。KIZUKIプロジェクトを活用して、自分の将来像を造る。

(2) K I Z U K I プロジェクト関係 具体的な取組（令和7年度）

実施時期	実 施 事 項
4月17日	R7年度 K I Z U K I ガイダンス
5月21日	【復興教育】避難訓練①
6月26日	K I Z U K I 中間発表会（3学年）
7月2日	【高校魅力化】K I Z キャラバン①（小本中）
7月4日	【高校魅力化】K I Z キャラバン②（小川中）
7月10日	【高校魅力化】K I Z キャラバン③（岩泉中）
7月11日	【高校魅力化】K I Z キャラバン④（田野畑中）
7月27日	【復興教育】第3回郷土芸能フェス
9月22日	【復興教育】ジオラマ防災教室 @小本小学校
10月9日	K I Z U K I 発表会（3学年）
10月15日 ～17日	【復興教育】普通救命救急講習（学年ごと）
10月21日 ～22日	【復興教育】K I Z U K I DAYS（インターンシップ：2学年）
11月5日	【復興教育】避難訓練②
12月11日	【復興教育】東日本大震災津波伝承館及び大槌高校訪問（1学年）
12月11日	【復興教育】午前：共助のあり方講座、午後：応急処置実践（3学年）
1月30日	【復興教育】R7年度「岩手の復興教育」児童生徒実践発表会 パネルディスカッション（代表生徒2名参加）
2月12日	【高校魅力化】地域担い手講座・ワークショップ（1・2学年）
2月12日	K I Z U K I 総括発表会（1・2学年）

(3) 取組の概況（昨年度の事業実践書から）

1 SDGs 演習（5月15日）

株式会社サンサンスターラボ代表の高野嘉明氏を招き、2年生対象におこなった。全世界共通の課題として捉えられ、かつ日本の社会でも広く達成に向けて取り組まれている SDGs の視点について、演習を通して検証し理解を深めた。



【SDGs 演習の様子】

2 避難訓練（5月21日）

迅速かつ安全な避難を行い災害時に備えることをねらいとして、消防署員は立ち会わず、学校独自の実施とした。

3 学校安全研修

1) 職員対象：救命救急講習（6月10日）

毎年この時期に教職員研修の一環としておこなっている。10月に生徒を対象とした救命救急講習の実施を控えて、AEDの使用法や心肺蘇生法の講習を行った。



【救命救急講習（職員）の様子】



【救命救急講習（生徒）の様子】

2) 生徒対象：救命救急講習（10月16日～18日）

全校生徒を対象に、学年ごと実施日を変えて行った。AEDの使用法や心肺蘇生法の講習を行うことで、生命の大切さや、事故や災害の当事者として一人ひとり何ができるかを学んだ。

3) 職員対象：学校安全に関する講話（12月16日）

岩手県立図書館長の森本晋也氏を講師に招き、文部科学省時代の取組や全国の小中学校・高校での実践を例に、学校安全や交通安全等に関する教員が踏まえていなければならない視点を具体的に学んだ。

4 郷土芸能フェス（7月28日）

昨年度、本校郷土芸能同好会の取り組みを通じて地域社会の活力充実・地域の魅力発信につなげた企画を、今年度は本校 KIZKI プロジェクトと融合し、生徒実行委員会を設けてさらに生徒の主体

的な活動の場として深化させた。出演団体も昨年度の北上翔南高校ほか新たな県内の高校団体、地元中学の太鼓団体に加え、能登半島地震の被災県である富山からも南砺平高校を招き、単に郷土芸能の共演を地域の方々に堪能していただくだけではなく、被災地同士をつなぐ架け橋的役目を担うことができた。



【郷土芸能フェスの様子】

5 復興教育

1) 小学校・高校連携 ジオラマ防災教室（8月28日）

地元小学校との連携を兼ねて、災害が発生する危険が起きた際、小学校児童が自分の命を自分で守り、小学生の段階から、地域の防災・減災を考えられるよう、自分たちの町への理解を深め、防災・減災に役立つことを目的として企画した。当日は、本校の生徒が教師役となり、小学生を対象に岩泉町のジオラマを用いて防災について授業を行い、地形から起こりうる災害と、その避難経路

を共に学ぶことができた。



【ジオラマ防災教室の様子】

2) 復興教育事業当日

ア 3 学年 (10 月 23 日)

午前には岩手大学地域防災研究センターの坂口奈央准教授を講師に招き、「地域と共に生きる」をテーマに、坂口准教授が取り組んでいる地域防災・復興に向けた地域コミュニティ創生の実践を聞きながら、これからの防災・減災や地域防災のあり方を学んだ。午後は、地元で若手防災士の育成に取り組んでいる NPO 法人クチュカ理事の鈴木悠太氏による「共助」の講義と演習を実施した。演習では自分ができることを相手にも提供する「助け合いゲーム」を体験しながら、共助について理解を深めました。



【3 学年 坂口准教授「地域と共に生きる」】



【3 学年 「助け合いゲーム」】

イ 1 学年 (10 月 24 日)

午前は大槌高校を訪問して、大槌高校の生徒とワークショップを行い、被災地における震災伝承の取り組みを共有した。午後は陸前高田市に移動して東日本大震災津波伝承館を見学し、当時の被害状況や現在までの復興の現状について知見を広げ、震災に対する理解を深めた。



【1 学年 大槌高校での交流会】



【1 学年 東日本大震災津波伝承館の見学】

3) 復興を考える科学的思考力養成講座 (11月15日)

岩手大学理工学部の高木浩一教授を招き、1学年対象に、探究学習の基本ともいえる科学的な思考力や、その視点について、実演実験を交えたガイダンスをしていただき、演習を通して科学的な思考力を体験的に学んだ。



【講座での演習の様子】

6 防災講話 (1月21日)

岩泉町危機管理課の八木橋弘一氏を講師に招き、避難所運営のシミュレーション・ワークショップを通して、高校生が携わる地域防災について知見を増やすことができた。



【防災講話の様子】

7 成果と課題

1) 成果

本校では、過去の東日本大震災や台風10号被害の経験から、主として「防災」「復興に向けた地域コミュニティの創出」に重点を置いて復興教育に取り組んできた。また、過去の災害において、被災や急病人等が発生した際も生徒自身は、自主的に行動し救護・支援活動に参加することが多く、救命救急講習の実施で自他の生命尊重の精神を育てることもできている。さらに今年度は、「復興支援」の視点も増やして、昨年度初めて企画した郷土芸能フェスに、能登半島地震で被災した富山県からも高校郷土芸能団体を招待しておこなった。自校だけではなく、郷土芸能活動に取り組む他校とも連携・協働して、地域の人々に活力充実・いっそうの情報発信するねらいだけではなく、過去の災害と向き合いながら互いに手と手を取りあって支え合える被災地同士の共同体形成にも寄与することができた。また、新たなジオラマ防災教室という企画を立ち上げ、高校生・小学生という次代の地域の担い手が連携して、地域の防災・減災を考える取組に着手することができた。

2) 課題

昨年度からの郷土芸能フェス、新たな取り組みとしてのジオラマ防災教室等、地域の復興教育に関する取り組みをさらに前進させることができたが、こうした取組は生徒の総合的な探究の時間の学びにおける成就感の育成を図ることができる反面、学校としての労力がかなり大きく、教職員の負担も大きい。教職員には過重な自前主義との声もある。こうした他校にない取組は教職員の個の能力による部分があるものの、本県の復興教育を推進するためには、本校教職員に持続可能な形態へと移行することを視野に入れなければならない。解決策としては地域コンソーシアムの構築が不

可欠であり、その第一歩として本校の復興教育事業における取組を、地域おこし協力隊や地元 NPO 法人、地元企業と連携・協働していくことを計画段階から盛り込んでいきたい。

(4) 情報発信

令和4年度より開始した KIZUKI プロジェクト等の本校教育活動の情報発信を継続実施

- ・ 広報いわいずみ 泉高 Review
- ・ 高校魅力化プラットフォーム『note』



岩泉高校『note』二次元コード